

福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

【特集】福井のこころが集う山

時を旅する、生活宝庫足羽山

No.26
2017

紙
SOCIAL
PAPER
KUMIBITO

聖地でもあり、
日常でもあった。
だから余計に
親しみを持つんですよ。



福井市南西部、中心市街地の海にポツンと浮かぶ「足羽山」。桜の時期にはさくら色の、初夏ならば真みどりの、こんもりとした色に覆われる。秋が深まるとカエデが色をつけ、山に登れば、上質な氷菓子のよう透きとおる白山連峰が見わたせる。

古より信仰の対象とされてきた足羽山。「ゴツツと踏んだら石碑と見え」一歩足を踏み入れると、そんな言葉が道しるべになるほどたくさん



の史跡が立ち並んでいる。足羽神社を創祀したとされる継体天皇や戦国時代の豊臣秀吉、松平春嶽に橘曙覧、かつての偉人、文化人、



そして名もなきご先祖様までもが、ほんのすぐ傍に、気配として息づく。また、山は生活の一部、薪やケモノ肉、木の芽、果実など、山の恵みで命を

育んでもらってきた。だから、この地に住む、あるいはこの地を訪れる人々にとって、足羽山は神でもあり、身近で親しい存在でもあった。それは道沿いにギュッとあつまつた、数十を超える史跡や記念碑、社寺、銅像、笏谷石採石場跡、公園、アスレチック場、植物園、動物園、博物館、電波塔、平和塔、茶屋、商店…など、バラエティに富んだ数々のシンボルたちが物語っている。この山がそれだけ長く、「福井の歴史と人々のつながり」を見てきた、ということだろう。

足羽山の味わい方はそれぞれ。福井の四季を満喫するもよし、子どもを連れて動物園へ行くもよし、気軽にウォーキングするのもよい、同時に、「たのしみは 朝おきいでて昨日まで 無かりし花の咲ける見る時」と、かの歌人の歌を口ずさみながら妄想にふけるもまたオツ。



足羽山公園

明治42年、皇太子殿下(後の大正天皇)北陸行啓の記念事業として、日本人初の公園デザイナー長岡安平により設計された。福井市民総参加の労力奉仕が行われ完成した足羽山公園は、まさに衆力のタマモノ。(写真は郷土力士による労力奉仕)



笏谷石



古墳群

確認されているだけでも30基程の古墳が残る。元々は「聖」の山とされ、かつてこの地域をおさめた豪族の鎮まりますお山。そう思いを馳せると山全体が巨大な古墳に見えてくる…!?



継体天皇像

足羽川、九頭竜川、日野川の治水を行い、福井の湿原を住めるように干拓された「継体天皇」像が山頂より市民を見守っている。笏谷石の採掘も継体天皇の勅めとされ、明治時代に当時の石工さんたちが継体天皇を慕って建てたもの。

昭和28年には、郷土博物館(現自然史博物館)や飛行塔、おとぎの国、お菓子の国などの文化施設が建てられ、あいつく戦災と震災から無事に復興したことを印象つけた。その後、植物園や動物園が開園し、レジャーの山としても市民から愛される存在となった。



復興博覧会

僕はこの時代にタイムスリップしてみたいですよ



「清らかな水と空気、桃林があって…、瓦屋根のおだやかな城下町、そして白山が見えて…。江戸時代の福井ですっごくきれいな、たぶんキラキラした町だったんですよ」

福井市立郷土歴史博物館
館長 角 鹿 尚 計

※ 出典：福井市立郷土歴史博物館 編(1987)『足羽山の今昔』。

シダレザクラの400年も 山の歴史から言うと ちゃふんとも言わない

足羽山、兔越山、八幡山からなる「足羽三山」には、ブナやクヌギ、コナラなど、数万年前の落葉樹が自生し、いまもなお古代からの自然を中心市街地に残している。その一方で、近年問題になってきているのが、竹林の放置による雑木林への侵食だ。繁殖力の強い竹が密集して生え、自然の落葉樹ばかりか、下草や他の樹木は芽吹くことさえできず、里山としての豊かな植生が乱されてしまう。

かつては、タケノコを採ったり、カゴヤザルを作る為に竹を刈ったりと、人の手が入る事によって、その生態系が維持されてきた。そう、里山は人がいてこそ。いつの時代も誰かが守ってきたこの山を、今度は私たち一人ひとりが、「ごみを持ち帰り添うことが必要かもしれない。ギフトチョウ、シダレザクラ、イロハカエデ。市の天然記念物だけを守るためだけではない、街中にある、モコモコした緑の、心地よい場所を失わないために。

昔のままで良い、それが保全ですよ



足羽山の良い所は、タヌキが遊んでいるところ、兎が駆け回っているところ…。ここに住んでいる人間からすると、このままの自然が丁度良い、十分キモチ良いぞ！

足羽神社
宮司 馬來田 善敬

取材……宮本 隆行 Art Director……三 嶋 良 晴
撮 影……高 橋 正 勝 特別協力……角 鹿 尚 計
制 作……牧 田 有 加 特別協力……馬 來 田 善 敬

組人についてのお問い合わせ・バックナンバーは

発行元 大一印刷株式会社

〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1

TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442

http://bigone-p.com/kumibito/

企画制作・編集

コミュニティサポート5〇プロジェクト

Find us on
facebook.

